

職員リレーエッセイ

「大切なパートナー」

つるさと せいかつしえんいん あさみ ゆきえ  
ニコニコハウス鶴里 生活支援員 浅見 雪江

わたし たいせつ 私の大切なパートナーを紹介したいとおもいます。

かれ 彼は、ヨーキーとプードルのハーフ犬の2.3キロの愛犬です。全身まっくろくろすけ  
だったはずが、最近はシルバーも所々。

わたし には12年連れ添った先代の愛犬がいました。7年前その先代が、この世を去ったとき、私は、毎日お墓参りに行っては、泣きながら帰っていました。ある時、墓石の周りを1匹の大きな蜂が飛んでいて、帰ろうとすると、後ろからついてきました。刺されるかな思いながら、足早に……。出口の直前、その蜂はまっすぐ天高く飛んでいきました。立ち止まって見上げながら、「先代なんだね。ありがとう。もう泣かないよ。」とつぶやいた私。今もその光景は脳裏に焼き付いています。「もう絶対に飼わない」と思っていたはずが、...

ひゃっかにち す 百箇日が過ぎたころ、ペットショップに足が向いていました。ガラス越しに店員さんのほうを向いて座っていた1匹の仔犬の後ろ姿、先代だ！と心の叫び。

みるだけ~のつもりが、店員さんに「抱っこしてもいいですか？」

と声かけ、わが手の中に。「うちに来る？」と仔犬に話している

わたし たんじょうび 誕生日が先代の亡くなる1週間前！ ‘運命の赤い糸’

むす で結ばれていたのです。

その仔犬も今年6歳(人間で言うと41~42歳)。早いもので、

もう壮年！日向ぼっこの後ろ姿は、縁側でうとうとしているおばあちゃんの後ろ姿にそっくり。話を聞くときの左に顔傾けて、右耳あげる表情は、とてもキュート。私の服装とカバンを見て、仕事か休みか？スマホの着信音で電話か否か？を見極めてい。リンゴの皮をむいていると寝ていたはずなのに走ってくる。都合が悪いと、知らんぷい。おやつが欲しいと、策略を練っている。いたずらのあとのごめんなさいのウルウルした目。姿は違えども、しぐさは、人間と同じ。

まだまだ色々ありますが、私にとっては、心通う大切なパートナー。これからもよろしくね。

つぎ 次のリレーエッセイは、ヘルパーステーションわはは 今井恵子さんに繋がります。

